

BAR SW-4P WL

取扱説明書

http://www.corega.co.jp/

Wireless Broadband Access Router

PN J613-M7149-00 Rev.A 020415







お手入れには次のものは使わないでください ・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん (化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)



電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また設置 の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- ・心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでくだ さい。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電 磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか 工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要す る無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されてい ます。

- (1) この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- (2) 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事 例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポー トセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談して 下さい。
- (3) その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干 渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サ ポートセンターにお問い合わせ下さい。

目次

電	波に関する注意		4
は	じめに		6
1	製品概要		8
	1.1 各部の名称と機能		.9
	1.2 使用境項		.9 10
	1.4 本製品の工場出荷時設定 10		10
2	クライアントコンピューターを設定する	1	1
	2.1Windows 95/98/Me 編	····· ·	11
	2.2Windows 2000 編	····· '	12
	2.3Windows XP 編	•••••	14
	2.4Windows N14.0 編	•••••	14
	2.5Mac OS 9.X (8.X) 跚	•••••	10 16
3	本製品を取り付ける	1	7
-	31取り付ける前に	٠,	17
	3.2取り付け	····· ·	18
4	インターネットにつなぐ(クイック設定)	2	0
	4.1Web ブラウザの設定確認		20
	4.2 電源を入れる		21
	4.3 本製品の設定をする		22
	4.4 インターネット接続の確認		29
~	4.5 2 台目以降のクライアントコンビューターを本製品に接続する		29 4
5	より高度な設定を9る(アトハノスト設定)	3	1
	5.1 アドバンスド設定メニューを表示する		31
	5.2 システム設定		32
	5.3LAN 側の設定		37 30
	5.5DMZ 設定		39
	5.6 バーチャル・サーバー設定		41
	5.7 パケット・フィルタリング設定		43
	5.8DHCP 設定	····· *	47
~	5.9 人ダテイツグ・ルーティング・テーブル		51 0
6	無線アクセスホイント機能の設定を9る	5	3
	6.1 アクセスポイント機能の設定項目		53
	0.2 改正を发史りる	····· i	20 56
7	こんかレキには・・・	Б	0
'		5	0
	7.1 本製品の接続状態を見たい		58 59
	7.3PPPoE 接続を手動で切断 / 接続したい		58
	7.4本製品にアクセスできない		58
	7.5本製品にアクセスはできるがメニューがきちんと表示されない	(59
	7.6 無線ネットワークアダプターで本製品と通信できない		59
生川	7.7インターネットに接続できない	! C	59 ⊿
푃	而江惊	0	1
保	証と修理について	6	2
ュ	ーザーサポートについて	6	2
お	ことわり	6	4
5		0	r

<u>はじめに</u>

この度は、「corega BAR SW-4P WL」をお買い上げいただきまして誠にあ りがとうございます。この取扱説明書は本製品を正しくご使用いただくため の手引きです。また、製品保証書も兼ねておりますので、大切に保管してい ただきますようお願いいたします。

内容物をご確認下さい

本製品パッケージの内容は、下記の通りです(下記以外に添付紙が同梱さ れている場合があります)。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一 不足するものがございましたらお手数ですが、弊社サポートセンターまで ご連絡ください。





ご利用までの作業手順

本製品を設定する際の作業手順は以下のとおりです。 各章の手順に従って作業してください。



1 製品概要

本製品の機能は大きく2つに分けることができます。

ADSL/CATV 等に対応したブロードバンドアクセスルータ

- ・LAN ポートには 100BASE-TX/10BASE-T の自動認識ポートを装備
- ・WAN ポートには 10BASE-T ポートを装備
- ・4 ポートの 10/100Mbps ファーストイーサネット・スイッチ内蔵
- ・ADSL/CATV モデムに接続し、複数のクライアントからインターネット接続可能
- ・一つのグローバルIPアドレスで最大253台までのクライアント接続が可能
- ・インターネットからの不正アクセスを防止するファイアーウォール機能搭 載
- パケット・フィルタリング機能搭載
- ・DHCP サーバー・クライアント機能搭載
- ・PPPoE に対応

無線アクセスポイント

- ・無線ネットワークアダプターと一緒に使用して既存の有線LAN環境と無線 LAN 環境を統合したネットワークの構築が可能
- ・2.4GHz 帯の小電力通信システムを使用しているため無線免許が不要
- ・直接拡散変復調によるスペクトラム拡散方式(DS-SS)の採用によりノイ ズにも強い
- ・IEEE802.11b に準拠し、無線上での通信速度 11Mbps の通信が可能
- ・通信可能距離は、屋外 150m/屋内 50m(送信速度 11Mbps 時には、屋外 60m/屋内 30m)
- ・1 ~ 14 チャンネルを切り替えて使用することができるので、チャンネルご
 とのワークグループの設定も可能
- ・WEP 方式による暗号化機能と ESSID によるグループ識別機能



各部の名称と機能は以下のとおりです。



Power (緑)	本体に電源が供給されているときに点灯します。
Self Test (橙)	システム初期化時のセルフテスト中に点灯します。
WANポートLink	本製品のWANポートと接続装置(ADSL/ケーブルモデムなど) とのリンクが確立し、相互に通信可能な状態にあるときに点灯します。
WANポートAct	パケットの送受信が正常に行われているときに点滅します。
LANポート100M	ポートが100Mbpsで動作しているときに点灯します。 消灯している場合は、10Mbpsで動作していることを示します。 100Mbps/10Mbpsの切り換えは、オートネゴシエーション 機能によって、本製品が自動的に行います。 ユーザーが設定する必要はありません。
LANポート Link/Act	接続されたクライアントとのリンクが確立し、相互に通信可能な 状態にあるときに点灯します。また、パケットとの送受信が正常 に行われているときに点滅します。
Wireless Link	無線ネットワークアダプタとのリンクが確立し、相互に通信可能な 状態にあるときに点灯します。
Wireless Act	パケットの送受信が正常に行われているときに点滅します。
DCジャック	ACアダプターのDCプラグを接続するためのコネクターです。
100BASE-TX /10BASE-Tポート	100BASE-TX、または10BASE-TのUTPケーブルを 接続するためのコネクターです。
WANポート	本製品とADSL/ケーブルモデムまたは既存のネットワークとを 接続するためのポート(RJ-45)です。
リセットスイッチ	本製品が何らかの原因で動作不可になった場合に、リセット することができます。スイッチを押すと、再起動します。 5秒以上スイッチを押していると、工場出荷時の状態に戻ります。 注意:工場出荷時の状態に戻すと、それ以前に設定した値はすべて 初期化されますので、ご注意ください。
無線アンテナ	無線ネットワークアダプタと通信を行うアンテナです。 使用時は立ててご使用下さい。

1.2 使用環境

本製品のクライアントとしてご使用になれる環境は次のとおりです。

・Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT、Mac OS、UNIX、Linux など TCP/IP をサポートする全ての OS。

1.3 設定に必要な環境(お客様にてご用意下さい)

- Internet Explorer Ver.5.0以上/Netscape Communicator Ver.4.7以上が動 作する OS、およびそれらが正常に動作していること
- ・UTP ケーブル (クライアントコンピューターと本製品をつなぐため)
- ・10BASE-T、100BASE-TX、10/100BASE-TX いずれかに対応するネット ワークアダプター、もしくはネットワークアダプター内蔵型クライアント コンピューター
- ・(無線ネットワークアダプターを使用する場合)802.11b対応の無線ネット ワークアダプター
- ・TCP/IP プロトコル



本製品に接続するクライアントの設定方法に関するサポートはコレガ製品を使用していない場合はできません。



使用するプラウザのバージョンは、Internet Explorer Ver.5.0 以上、Netscape Communicator Ver.4.7 以上になります。

ネットワーク アダプターのインストールについてはネットワークア ダプターの取扱説明書、プロトコル

-ルについては、各 OS の取扱説明書を参照してください。

注意

1.4 本製品の工場出荷時設定

本製品の工場出荷時の設定は以下のとおりです。

ルータ部

- 管理者ログイン名:root
- ・パスワード:なし
- ・LAN 側 IP アドレス:192.168.1.1
- ・サブネットマスク:255.255.255.0
- ・DHCP: 有効 (アドレスプール「192.168.1.11~192.168.1.254」)

無線アクセスポイント部

- ESSID:corega
- ・チャンネル:6
- 通信速度:Auto
- •暗号化 : 無効



本製品にアクセスできるように、クライアントコンピューターを DHCP クラ イアントとして設定する作業を行います。

この作業を行うには、あらかじめネットワークカードおよび TCP/IP プロトコルがインストールされて いる必要があります。インストールされていない場合は、まずクライアントコンピューターに、ネット ワークカードおよび TCP/IP プロトコルをインストールしてください。インストール方法は、ネット ワークカードおよびご使用の OS の取扱説明書を参照してください。

2.1 Windows 95/98/Me 編

- 1 クライアントコンピューターを起動します。
- 2「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択します。
- 3「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4 以降の画面は Windows Me の例です



図 2.1-1

5 DHCP クライアントとして設定します。



図 2.1-2

6 DNS 設定を解除します。



図 2.1-3

図 2.2-1

- 7 クライアントコンピューターを再起動してください。
- 8 以上でクライアントコンピューターの設定は終了です。引き続き P.17 の 「3本製品を取り付ける」にお進み下さい。
- 2.2 Windows 2000 編
- クライアントコンピューターを起動し「Administrator」権限を持つユー ザ名でログインします。
- 2 「スタート」 「設定」 「ネットワークとダイアルアップ接続」を選択 します。
- 3 「ローカルエリア接続」の「プロパティ」を表示します。



4 プロトコルの「プロパティ」を表示します。



図 2.2-2

5 DHCP クライアントとして設定します。



6 DNS の設定を解除します。



図 2.2-4

7 クライアントコンピューターを再起動してください。

- 8 以上でクライアントコンピューターの設定は終了です。引き続き P.17 の 「3本製品を取り付ける」にお進み下さい。
- 2.3 Windows XP 編
- 1 クライアントコンピューターを起動し「コンピュータの管理者」権限を 持つユーザ名でログインします。
- 2「スタート」「コントロールパネル」内で「ネットワーク接続」をダブ ルクリックします(「ネットワーク接続」が表示されない場合は「コント ロールパネル」「クラシック表示に切り替える」をクリックします)。
- 3 以降の手順は、Windows 2000 と同じです。P.12 の「2.2 Windows 2000 編」の3 ~ 8の手順を参照して作業を行ってください。
- 2.4 Windows NT4.0 編
- クライアントコンピューターを起動し「Administrator」権限を持つユー ザ名でログインします。
- 2「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択します。
- 3「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4 プロトコルの「プロパティ」を表示します。



5 DHCP クライアントとして設定します。



6 DNS の設定を解除します。



- 7 クライアントコンピューターを再起動してください。
- 8 以上でクライアントコンピューターの設定は終了です。引き続き P.17 の 「3本製品を取り付ける」にお進み下さい。

2.5 Mac OS 9.x (8.x) 編

- 1 「アップルメニュー」 「コントロールパネル」 「TCP/IP」をクリッ クします。
- 2 DHCP クライアントとして設定します。



- 3「TCP/IP ウィンドウ」を閉じて、設定を保存してください。
- 4 以上でクライアントコンピューターの設定は終了です。引き続き P.17 の 「3本製品を取り付ける」にお進み下さい。
- 2.6 Mac OS X 編
- 1 「システム環境設定」から「ネットワーク」を開きます。
- 2 DHCP クライアントとして設定します。



図 2.6-1

3 以上でクライアントコンピューターの設定は終了です。引き続き P.17 の 「3本製品を取り付ける」にお進み下さい。

3本製品を取り付ける

3.1 取り付ける前に

プロバイダーへの申請

ご契約されているプロバイダーやインターネットサービスによっては、イ ンターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場 合、ADSL/CATV モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品も含む パソコンなど)の WAN 側の MAC アドレス をプロバイダーに対して事前 申請してください。本製品では本体底面に WAN 側の MAC アドレスを貼 付しています。



MAC アドレスの事前申請が必要かどうかは、ご利用のインターネットサービスによって異なります。ご 契約のインターネットサービスプロバイダーに確認してください。



MAC アドレスの事前申請が必要なインターネットサービスの場合、プロバイダーへの申請および登録 が完了するまで本製品を利用したインターネットアクセスはできません。また、すでにお使いの機器(コ ンピューター等)の MAC アドレスをプロバイダーに申請している場合、本機の MAC アドレスの再申 請が必要になります。



MAC アドレスについて

イーサネット(Ethernet)に接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を 行っています。MAC アドレスは機器(アダプター)のひとつひとつに割り当てられた唯一無二のユニー ク(unique)なアドレスです。MAC アドレスは、下記の 6 パイト(48 ビット)によって構成されて おり、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは本体底面に記入されています(表記はすべて 16 進数)。本製品に貼付されているのはWAN 側の MAC アドレスです。LAN 側の MAC アドレスについてはブラウザ設定画面のシステム情報で確認 できます。

00	**.#_I	<u> </u>			~~~
	ヽンツー!	D	10	目し留ち	

・ ベンダー ID

LAN ベンダー(LAN 機器を製造しているメーカー)が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。

通し番号

この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたものです。この通し番号と本製品の「シリアル番号シール」の番号に関連はありません。

設置場所

本書冒頭の「安全のために」をよくお読みになり、正しい場所に設置して ください。

電源

必ず付属の AC アダプターを使用し、AC100V のコンセントに接続してく ださい。それ以外の AC アダプターやコンセントを使用すると、発熱によ る発火や感電のおそれがあります。

なお、AC プラグ部が AC100V コンセントに接続するほかの機器のじゃまになる場合は、付属の延長用電源ケーブルを接続してお使いください。



図 3.1-1

推奨ケーブル

すべてのケーブルが機器間を接続するのに十分な長さであることを確認し ます。本製品と端末を接続するケーブルの長さは100m以内にしてくださ い。また、ケーブルは100BASE-TXの場合はカテゴリー5のUTPケーブ ル(ストレートタイプ)、10BASE-Tの場合はカテゴリー3以上のUTP ケーブル(ストレートタイプ)を使用してください。

起動と停止

AC アダプターの DC プラグを本体背面の DC ジャックに接続し、AC プラ グを電源コンセントに差し込むと起動します。AC アダプターの AC プラグ を電源コンセントから抜くと停止します。



本製品には電源スイッチがありません。AC ブラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りま すのでご注意ください。



AC アダプターのAC プラグを電源コンセントに差し込んだまま DC プラグを抜かないでください。感 電事故を引き起こすおそれがあります。

3.2 取り付け

1 ネットワークに接続する全ての機器の電源をお切り下さい。

2 各機器を接続します(次ページの手順を参照)。



図 3.2-1



4 インターネットにつなぐ(クイック設定)

Web ブラウザで本製品にアクセスし「クイック設定」画面からインターネットに接続できるように設定します。この画面では、インターネットに接続するために必要な設定項目のみで設定することができます。





アドパンスト設定によって設定した後、クイック設定を行うと、アドパンスト設定の内容はクイック設 定の内容に上書きされてしまいますのでご注意下さい。

4.1 Web ブラウザの設定確認

Web ブラウザで本製品にアクセスするには、プロキシ設定をしていない状態 で行います。以下に Internet Explorer 5.0(Windows 版)を例に確認の手順 を説明します。その他の環境の場合は、ブラウザのヘルプ等を参照してくだ さい。



ブラウザがオフライン作業と表示されている場合は、本製品の設定ができません。オフライン作業を解除してから設定を行ってください。

- 1 Internet Explorer を起動します。
- 2 メニューから「ツール」 「インターネットオプション」を選択します。
- 3 LAN の設定を行います。



図 4.1-1

4 プロキシの設定を解除します。



図 4.1-2

- 5 3の手順の画面に戻ったら、「OK」をクリックし、コンピューターの電源を切ります。確認作業は以上です。引き続き、P.21の「4.2電源を入れる」にお進み下さい。
- 4.2 電源を入れる
- 1 本製品に接続した ADSL/CATV モデムの電源を入れ、完全に動作していることを確認します。
- 2 本製品 AC アダプター差込口に DC プラグを接続します。
- 3 AC アダプターをコンセントに接続します。

Self Test LED が数秒点灯した後消えて、本製品の Power LED および WAN Link LED が点灯します。



図 4.2-1

4 本製品に接続したクライアントコンピューターの電源を入れます。 クライアントコンピューターが接続された本製品の LAN 側ポートの LED が点灯します (この時点で、本製品の DHCP サーバ機能によりクライアン トコンピューターにプライベート IP アドレスが割り振られています)。



- 5 これで起動の手順は終了です。引き続き、P.22 の「4.3 本製品の設定を する」にお進み下さい。
- 4.3 本製品の設定をする

出荷時の設定

出荷時の主な設定は次の通りです。

- ・LAN 側 IP アドレス :192.168.1.1
- ・DHCP サーバ機能: 有効
- ・ユーザー名 :root
- パスワード:設定なし
- ・無線チャンネル:6
- · ESSID:corega
- •暗号化:無効

設定前の確認

本製品をインターネットに接続する前にインターネットアカウント情報を 準備してください。必要なアカウント情報はご契約されているプロバイ ダーなどの回線環境(ADSL/CATV等)によって異なります。回線環境と アカウント情報についてはご利用のプロバイダーにお問い合わせ下さい。

・PPPoE(Point-to-Point over Ethernet) 接続の場合 (主に NTT のフレッツ ADSL の場合等)

ユーザー名	
パスワード	
サービス名 (指定された場合)	
DNSサーバー1 (指定された場合)	
DNSサーバー2 (指定された場合)	

図 4.3-1 PPPoE の設定情報



サービス名の情報は指定されている場合のみ準備してください。

・WAN 側 IP 自動取得の場合 (主に CATV モデムと接続する場合等)

ドメイン名 (指定された場合)	
コンピュータ名	
DNSサーバー1 (指定された場合)	
DNSサーバー2 (指定された場合)	

図 4.3-2WAN 側 IP 自動取得の設定情報



・WAN 側 IP 固定の場合(プロバイダーより固定 IP を指定された場合)

WAN側IPアドレス	
サブネットマスク	
デフォルト ゲートウェイ	
DNSサーバー1	
DNSサーバー2	

図 4.3-3WAN 側 IP 固定の設定情報

必要な情報が確認できたら、設定作業に進んでください。

設定を開始する

Internet Explorer 5.0 Windows 版の画面を例に説明します。

本製品、クライアントコンピューター、ADSL/CATV モデムが起動していることを確認します(この時点でクライアントコンピューターにIPアドレスが割り振られています)。



無線ネットワークカードで設定する場合は、この時点で無線ネットワークカードの動作モードを 「Infrastructure モード」、ESSID(SSID)を「corega」に設定して、本製品と通信できていることを 確認してください。



本製品のデフォルトの ESSID は「corega」ですが、実際の運用の際にはセキュリティ上、任意の値に 変更することをお勧めします。ESSID の変更方法については、P.53の「6 無線アクセスポイント機能 の設定をする」を参照してください。

- 2 Web ブラウザを立ち上げます。
- 3 本製品にアクセスします。



4 本製品にログインします。



図 4.3-5



5 クイック設定画面を表示します。



図 4.3-6



プラウザの JavaScript 機能が無効になっていると左側のメニューが正常に表示されません。このよう な場合は、ご使用のブラウザの設定を確認してください(通常、初期設定では有効になっています)。 設定を有効にする方法はブラウザのヘルブ等をご参照ください。

- 6 ご使用の環境に合わせた接続方法の設定を選択してください。
- PPPoEの設定をする場合(主にNTTのフレッツ ADSL等)
 画面例ではプロバイダーからの指定を下記のように仮定して説明します。
 - ・ユーザー名 :corega.co.jp
 - ・パスワード :password
 - ・サービス名:指定なし
 - ・DNS サーバー:指定なし

corega BAR SW-4P WL - Microsoft	Internet Explorer		
ファイル(E) 編集(E) 表示(M) お	気に入り(4) ツール(1) ヘルブやり		1
↓ ₹5 • → • 🙆 🔄 🖄 🥘	株常 自お気に入り 🥝展景 🕓・ 🕞 🗹・		
アドレス(型) 🛃 http://192168.1.1		• 冷静曲 92	5 ×
	○₩₩側[P(自動取得) ○₩₩	クイック設定 側IP(創定) 回門門	● PPPoE」を選択する
※ アドバンスド設定			
 ● 無線アクセスポイント読 ● システム情報 ● ヘルブ 	PF	Poe	
	ユーザー名		
	バスワード		
	バスワードの確認		
	サービス名		
	DNSサーバー	 自動設定 マニュアル設定 	
	DNSサーバー1	0.0.0	
	DNSサーバー2	0.0.0	
		動電 机橡	
e	1	◎ 信頼済みサイト	

図 4.3-7

下の例の各値は架空のものです。実際には、P.22の「図 4.3-1PPPoEの設定情報」で控えた値を参照 して入力してください。





7の手順へお進みください

・WAN 側 IP 自動取得の設定をする場合

画面例ではプロバイダーからの指定を下記のように仮定して説明します。

- ・ドメイン名 :corega
- ・コンピュータ名:指定なし
- ・DNS サーバー : 指定なし



図 4.3-9

下の例の各値は架空のものです。実際には、P.23の「図 4.3-2WAN 側 IP 自動取得の設定情報」で控注意 えた値を参照して入力してください。



- ・WAN 側 IP アドレス
 「自動設定」(IP アドレスを起動時に取得)
 「トリガー設定」(IP アドレスを通信時に取得)
 ・ドメイン名
 プロバイダーから指定されたドメイン名を入力(指定がない場合は空欄)
 ・コンピュータ名
 プロバイダーから指定されたコンピュータ名を入力(指定がない場合は空欄)
 ・DNS サーバー
 プロバイダーから指定された DNS サーバーを入力
- (指定がない場合は「自動設定」、指定された場合は「マニュアル設定」を選択) ・DNS **サーバー** 1(**指定された場合のみ**)----プライマリサーバー名を入力
- ・DNS サーバー 2(指定された場合のみ)---- セカンダリサーバー名を入力

7の手順へお進みください

・WAN 側 IP 固定の設定をする場合

画面例ではプロバイダーからの指定を下記のように仮定して説明します。

- ・WAN 側 IP アドレス :12.34.56.78
- ・サブネットマスク:255.255.255.255
- ・デフォルトゲートウェイ :12.34.56.11
- ・DNS サーバー 1(プライマリサーバー名):12.34.55.66
- ・DNS サーバー 2(セカンダリサーバー名):12.34.44.55



図 4.3-10



下の例の各値は架空のものです。実際には、P.23の「図4.3-3WAN側IP固定の設定情報」で控えた 値を参照して入力してください。



7 本製品をリブートし、設定を有効にします。



図 4.3-12

- 8 ページが初期画面に戻ります。これでクイック設定は終了です。Web ブラウザを終了して、P.29 の「4.4 インターネット接続の確認」にお進みください。
- 4.4 インターネット接続の確認
- クライアントコンピューターで Web ブラウザを起動して目的の URL に 移動します。
- 2 目的のホームページが表示されたら設定は完了です。

・目的のホームページが表示されない場合は、P.59の「7.7 インターネットに接続できない」を参照してください。

4.5 2 台目以降のクライアントコンピューターを本製品に接続する 複数のクライアントコンピューターを本製品に接続して使用する場合の手順 を説明します。

- P.11 の「2 クライアントコンピューターを設定する」の手順に従って、 2台目以降のクライアントコンピューターを設定します。
- 2 増設するクライアントコンピューターの電源を切ります。
- (UTP ケーブルで接続する場合のみの作業)
 クライアントコンピューターと本製品の LAN ポートを UTP ケーブルで接続します。
- 4 クライアントコンピューターの電源を入れます。これで、2台目以降のク ライアントコンピューターの接続は終了です。

・・・ 次ページの「複数台で構成したネットワークイメージ」を参考にして本製品を活用してください。

本製品を使用した複数台のクライアントコンピューターのネットワーク構成 イメージです。



図 4.5-1

5より高度な設定をする(アドバンスド設定)

本製品のアドバンスド設定について説明します。

アドバンスド設定は、本製品運用の上で必要な場合のみ行ってください。 5.1 アドバンスド設定メニューを表示する

1 本製品にログインして初期画面を表示します。

2 メニューから「アドバンスド設定」をクリックします。



図 5.1-1

3 メニューが表示されます。



図 5.1-2

各メニューの機能と設定方法については、P.32の「5.2システム設定」から P.51の「5.9スタティック・ルーティング・テーブル」を参照してください。

5.2 システム設定

機能

- ・管理者ログイン名とパスワードの設定変更をする
- ・IP マスカレード・テーブル保持時間の設定をする(FTP等での長時間接続に 対応します)

IP マスカレード・テーブル保持時間に長時間の設定を行いますと、本製品に内蔵するメモリーを消費し、 複数のパソコンが同時にインターネット接続できなかったり、本製品の動作が不安定になる場合があり ます。本設定は大容量ファイルの転送、アップロード / ダウンロード)を行う場合にだけご使用ください。

- ・ステルスモードの設定
- ・製品設定を工場出荷時の状態へリセット



- ・システムのリブート
- ・ファームウェアの更新

本製品の動作に不具合がない場合には行う必要はありません。



設定方法(ログイン名等を変更するには)

ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。

- ・管理者ログイン名 :corega
- ・パスワード :corega1
- ・IP マスカレード保持時間:60分
- ・ステルスモード:有効



説明の便宜 上、すべての項目を設定しますが、実際には、例えば「パ スワードの変更のみ」など、必要 な項目のみ設定することができます。



・上記の「ステルスモード」を有効にすると、WAN 側からの不正アクセスを防止し、セキュリティを強 化させます。本機能はインターネット側からの Ping に対して、応答をさせないようにして、仮想的に 本製品を外部から見えなく(ステルス)することで外部の進入を防ぎます。 1「アドバンスド設定」メニューで「システム設定」をクリックします。



図 5.2-1

2 設定内容を入力し、更新をクリックして設定を有効にします。

管理者ログイン名	corega			
管理者ログイン・バスワード	*****		• +1 /+	
バスワードの確認	******		●設定値を	入力する
IPマスカレード・テーブル保持	時間 60	分(10~300)		
ステルス モード	「有効」			
工場出荷時の状態へ戻す	実行			
システム・リブート	実行			
ファームウェア更新				
更新	前述 声之	0	「更新」をク	リックする
				図 5.2-2

, 「更新」をクリックする前に「取消」をクリックすると、入力した内容が元の内容に戻ります。

3 「設定は、正常に処理されました」の画面が表示されて、自動的に2の手 順の画面に戻ります。「戻る」をクリックして初期画面に戻ってください。



設定方法(工場出荷時の状態へ戻す、システムリプートをするには)



「工場出荷時の状態へ戻す」を実行すると、それまでの設定内容が全て消去されます。必要な情報は控え ておいてください。

- 1 「アドバンスド設定」メニューで「システム設定」をクリックします (P.33 の「図 5.2-1」を参照してください)。
- 2 実行する操作の隣の「実行」をクリックします。



確認メッセージが表示されたら「OK」をクリックします。



図 5.2-5

システムリブート中は、本製品の Self Test LED が点灯し、リブートが完了すると消灯します。 注意

4 初期画面に戻ります。

設定方法(ファームウェアの更新をするには)



ファームウェアの更新を行っている間には、絶対に電源を切らないでください。本製品が正常に動作し なくなる可能性があります。



本製品の動作に特に不具合がない場合は、ファームウェアの更新を行う必要はありません。



最新のファームウェアは、弊社のホームページ (http://www.corega.co.jp/) からダウンロードしてく ださい。 ここでは、以下のように仮定して説明します。 ・ファームウェアを弊社のホームページよりダウンロードした ・ファームウェアのファイル名は「100.BIN」、保存先は「C:¥corega」

- 1 「アドバンスド設定」メニューで「システム設定」をクリックします (P.33の「図 5.2-1」を参照してください)。
- 2 「ファームウェア更新」をクリックします。

oorese BAR SW-4P WL - Microsoft	Internet Explorer	
- ファイル① 編集② 表示⊻ お	気に入り(A) ツール(D) ヘルナ(A)	ER .
↔ → · ② ≣& :::: 中±		
アドレス(D) 🛃 http://192168.1.1	 ・	א פו
	アドバンスド設定 / システム設定	
<u>21ッ2説</u> 定	管理者ログイン名 root	
日白 アドバンスド設定	管理者ログイン・パスワード	
8 🗃 27.74 🕅 🖻	120. 200	
🗎 27-40x73	7(X)=F00mas	
	IPマスカレード・テーブル保持時間 10 分(10 ~ 300)	
	ステルス モード 無効 ■	
	工場出荷時の状態へ戻す	
<u> </u>		
* N79F-7409		🛶 🗗 ノア ーム リエ ど史 #
The contractor	<u>77-K717</u> Km	
	Well Well Well	をクリックすろ
0 077154	JE #1 41.1H 840	2777790
http://192.168.1.1/AS_Upgrade.htm	🔹 12g-2yh	

図 5.2-6

3「参照」をクリックします。



図 5.2-7

4 「OK」をクリックします。



5 「ファイルの選択」ウィンドウでファームウェア・ファイルの場所を指定 して、「開く」をクリックします。

ファイルの選択		?×	
ファイルの場所の:	🔄 corega	- 🗈 🗹 🗃 📰	
100.bin		0	ファイルを指定する
」 ファイルタ(N):	100 bin		
		1#11	
ファイ ルの理実見(工)・	9∧(W)71ル(**)		
			「聞く」をクリックする

図 5.2-9

6「更新」をクリックします。



図 5.2-10

7「OK」をクリックします。





図 5.2-12

- 9 本製品が自動的にリブートされ、初期画面が表示されます。以上でファームウェアの更新は終了です。
- 5.3 LAN 側の設定

機能

・本製品の LAN 側の IP アドレスとサブネットマスクの設定変更をする



この操作を行うと、本製品の IP アドレスとサブネットマスクが変更されるので、次回本製品にアクセス する際にデフォルトの「192.168.1.1」ではアクセスできません。本製品の IP アドレスを変更した後 は、本製品とクライアントコンピューターを再起動してから、新しく設定した IP アドレスで本製品にア クセスしてください。



DHCP 設定が有効になっている場合、LAN 側の設定を変更すると、DHCP の設定も同時に変更する必要がありますのでご注意下さい。ここでは、DHCP 設定については、P.47の「5.8DHCP設定」を参照して作業を行い、再びLAN 側の設定の5の手順に戻って設定を行いますのでご注意下さい。

設定方法 (LAN 側の IP アドレスを変更するには)

ここでは、以下のように仮定して説明します。

- ・LAN 側 IP アドレス:「192.168.1.1」を「192.168.1.32」に変更
- ・DHCP アドレス・プール「192.168.1.11 ~ 192.168.1.254」から本製 品に設定した「192.168.1.32」を除外



ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。 詳細は、ネットワーク管理者等にお問い合わせ下さい。



DHCP アドレスプール内のアドレスを本製品のアドレスとして使用する場合は、アドレスプールから本 製品のアドレスを除外する必要があります。この作業を行わないと、次回から本製品にアクセスできな くなることがありますので必ず行ってください。 1「アドバンスド設定」メニューで「LAN側の設定」をクリックします。



図 5.3-1

2 設定する IP アドレスを入力します。



- 3 「設定は正常に完了しました」のメッセージが表示され、2の手順の画面 に戻ります。
- 4 P.47 の「5.8DHCP 設定」を参照し、上記で設定した「192.168.1.32」 をDHCP アドレスプールから除外します。
- 5 本製品をリブートします(リブートは電源アダプターの抜き差しで行って ください)。
- 6 本製品に接続しているクライアントコンピューターを全て再起動してく ださい。
- 7 これでLAN 側 IP の変更は終了です。 次回本製品にアクセスする際は、新しく設定したLAN 側のIP アドレスを指定してください。この例で は、アドレスは「192.168.1.32」になります。

5.4 WAN 側の設定

「WAN 側の設定」メニューの機能は「クイック設定」のメニューと同じものです。通常は「クイック設定」で行ってください。手順については、P.20の「4 インターネットにつなぐ (クイック設定)」を参照してください。

5.5 DMZ 設定

機能

・インターネットからのアクセスを、DMZ 設定した1台のクライアントコンピューターに全て転送する





この機能を設定できるのは1台のみです。設定するクライアントコンピューターはIPアドレスを固定す る必要がありますので、DMZ機能を設定するクライアントコンピューターのIPアドレスを固定してか ら行ってください。ここでは、IPアドレス固定については、P.49の「設定方法(固定IPテーブル)」 を参照して作業を行い、再び DMZ設定の20手順に戻って設定を行いますのでご注意下さい。



DMZ 設定したクライアントコンピューターは本製品の NAT/IP マスカレード機能の効力外となり、外部から容易にアクセスできる状態になります。その結果、DMZ 設定されたクライアントコンピューター から、その他の LAN 接続されたクライアントコンピューターに何らかの影響を及ぼすことも可能にな り、セキュリティ上非常に危険ですので、なるべくご使用をお避けください(デフォルトでは設定は無 効になっています)。



Microsoft Netmeeting には対応しておりません。



バーチャル・サーバーで設定されているポート番号については、バーチャル・サーバー設定が優先され ます。

設定方法

ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。 ・IP アドレス「192.168.1.3」のクライアントコンピューターをDMZ ホス トにする

ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。 注意

- 1 P.49 の「設定方法(固定 IP テーブル)」を参照して、クライアントコン ピューターの IP アドレスを固定します。
- 2 「アドバンスド設定」メニューで「DMZ 設定」をクリックします。



図 5.5-2

3 設定するクライアントコンピューターのアドレスを入力し、「設定」をク リックします。



2 の手順で DMZホストのアドレスに「0」を入力して「設定」をクリックすると、DMZ 機能を停止さ せることができます。

- 4 「設定は、正常に処理されました」の画面が表示され2の手順の画面に戻 ります。
- 5 本製品をリブートします。リブートについては、P.34の「設定方法(工 場出荷時の状態へ戻す、システムリブートをするには)」を参照してくだ さい。
- 6 これで DMZ 設定は終了です。

5.6 バーチャル・サーバー設定

機能

ポート番号が判明しているインターネット側からのアクセスをバーチャ ル・サーバーに設定したクライアントコンピューターに転送する

バーチャル・サーバー機能を設定するクライアントコンピューターはIP アドレスを固定する必要がありますので、設定するクライアントコンピューターの IP アドレスを固定してから行ってください。ここでは、IP アドレス固定については、P.49の「設定方法(固定IP テーブル)」を参照して作業を行い、再びパーチャルサーバー設定の2の手順に戻って設定を行いますのでご注意下さい。
設定方法

- ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。
- ・グローバルポート「1234」からのアクセスを IP アドレス「192.168.1.3」 のクライアントコンピューターに転送する。
- ・サービスタイプは「TCP」

ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。 注意

- 1 P.49 の「設定方法(固定 IP テーブル)」を参照して、クライアントコン ピューターの IP アドレスを固定します。
- 2「アドバンスド設定」メニューで「バーチャル・サーバー設定」をクリックします。



図 5.6-1

3 「有効」を選択し「設定」をクリックします。



図 5.6-2

4「追加」をクリックします。

図 5.6-3

5 設定内容を入力し、「設定」をクリックします。



図 5.6-4

6 バーチャル・サーバーの設定が追加されます。

(@1E	; nab	; le	v	'n		;	,	;]	234			j,	Γu	ni	1	92.	; 10	5, 68	ын .1.	3	н 123	34	;;	iv	٢o													
						j	自力	0		ſ	修正			削	除]	1	戻る						(1	彭	<u>ک</u> ر	Ē7	 か	Ň	追	力	07	さ	1	เว	cı	1	3	
						£)́	·最	大	10	台	ð	ŧτ	7 日	錡	t)	くで	ð	ŧ	す。	•																		

図 5.6-5

- 7 さらに設定を追加する場合は「追加」、設定を修正する場合は「修正」、設定を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 8 本製品をリプートします。リプートについては、P.34の「設定方法(工 場出荷時の状態へ戻す、システムリプートをするには)」を参照してくだ さい。
- 9 これで、バーチャル・サーバーの設定は終了です。

5.7 パケット・フィルタリング設定

機能

注意

LAN 内部からの特定のプロトコルでのインターネットへの通信、特定の IP アドレスへの通信を遮断しセキュリティを高める

本製品は WAN 側ボートからのアクセスを一切受け付けないようになっているため、本製品を保護する ような設定を行う必要はありません (DMZ、バーチャル・サーバーは除きます)。

設定方法(Port **ルール**)

- ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。
- ・サービスタイプ :TCP
- ・プロトコル :FTP(Port 21)

ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。

アドバンスド設定」メニューで「パケット・フィルタリング」をクリックします。



図 5.7-1

2「有効」を選択し「設定」をクリックします。



図 5.7-2

3「Port ルール」をクリックします。

バケット・フィルタリング 有効 🚽 設定



図 5.7-3

4 「追加」をクリックします。



図 5.7-4

5 設定内容を選択し「設定」をクリックします。



図 5.7-5

フィルタリングしたいプロトコルがリストにない場合は、「ユーザー定義」を選択して Port 番号を入力 してください。

★ この例のように設定すると、本製品に接続したクライアントコンピューターはFTP サーバーにアクセス できなくなります。 以下の表のプロトコルはあらかじめ Port 番号が設定されていますので、入力する必要はありません。

プロトコル	Port	サービスタイプ	サーバー種別
FTP	21	ТСР	FTPサーバー
HTTP	80	ТСР	WWWサーバー
NEWS	144	ТСР	NEWSサーバー
POP3	110	ТСР	メールサーバー(受信用)
SMTP	25	ТСР	メールサーバー(送信用)
TELNET	23	ТСР	仮想端末
TFTP	69	UDP	簡易ファイル転送

図 5.7-6

6「Port ルール」の設定が追加されます。



図 5.7-7

- 7 さらに設定を追加する場合は「追加」、設定を修正する場合は「修正」、設定を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 8 本製品をリプートします。リプートについては、P.34の「設定方法(工 場出荷時の状態へ戻す、システムリプートをするには)」を参照してくだ さい。
- 9 これで、Port ルールの設定は終了です。

設定方法(IP ルール) ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。 ・外部 IP アドレス「1.2.3.4」への通信を遮断する ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。

P.43 の「設定方法 (Port ルール)」の1 ~ 2の手順を実行します。
 2 「IP ルール」をクリックします。



図 5.7-8

3 「追加」をクリックします。



図 5.7-9

4 設定内容を入力し「設定」をクリックします。



図 5.7-10

・ この例のように設定すると、指定した IP アドレス「1.2.3.4」にアクセスできなくなります。

5「IPルール」の設定が追加されます。



図 5.7-11

- 6 さらに設定を追加する場合は「追加」、設定を修正する場合は「修正」、設定を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 7 本製品をリブートします。リブートについては、P.34の「設定方法(工 場出荷時の状態へ戻す、システムリブートをするには)」を参照してくだ さい。
- 8 これで、IP ルールの設定は終了です。
- 5.8 DHCP 設定

機能

- DHCP サーバーの設定をする(デフォルトでは有効になっています)
- ・固定 IP テーブル、除外 IP テーブル、BOOTP IP テーブルを設定する

DHCP 設定を変更した場合、設定内容によっては「LAN 側の設定」も同時に変更する必要がある場合 がありますのでご注意下さい。同時に変更しないと、次回本製品にアクセスできなくなる可能性があり ます。



本製品をローカルオフィスモードで使用時に、DHCP 設定した場合、DHCP サーバー機能によるデフォ ルトゲートウェイ、DNS サーバーの配布はできません。

設定方法 (DHCP アドレスプール)

ここでは、以下のような条件で設定を変更するものと仮定して説明します。

	現在	変更後
アドレスプール	192.168.1.11~ 192.168.1.254	192.168.1.6~ 192.168.1.254
本製品LAN側IPアドレス	192.168.1.6	192.168.1.5

図 5.8-1



この例では、DHCP アドレスブールを変更した場合、本製品の LAN 側 IP アドレスと重複するため、 LAN 側設定も必ず同時に変更する必要があります。ここでは、LAN 側設定については、P.37 の 「5.3.LAN 側の設定」を参照して作業を行い、再び DHCP 設定の5の手順に戻って設定を行いますので ご注意下さい。



ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。

1 「アドバンスド設定」メニューで「DHCP 設定」をクリックします。



図 5.8-2

2 設定内容を入力し「設定」をクリックします。



図 5.8-3

・ ここで「取消」をクリックすると入力した内容を元の内容に戻すことができます。

- 3 「設定は、正常に処理されました」の画面が表示され、2 の手順の画面に 戻ります。
- 4 P.37 の「5.3LAN 側の設定」を参照して、本製品の LAN 側 IP アドレス を「192.168.1.5」に変更します。
- 5 本製品をリブートします(リブートは電源アダプターの抜き差しで行って ください)。
- 6 本製品に接続しているクライアントコンピューターを全て再起動してく ださい。
- 7 これで DHCP 設定は終了です。

設定方法(固定 IP テーブル)

注意

ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。 ・MAC アドレス「0080C8F70463」のLAN ボードを搭載しているのクラ イアントコンピューターに「192.168.1.11」を割り当てる ・DHCP アドレスプールは「192.168.1.11 ~ 192.168.1.254」



固定的に割り当てる IP アドレスは、DHCP アドレスプールの範囲内である必要があります。DHCP ア ドレスプールについては、P.47 の「設定方法 (DHCP アドレスプール)」を参照してください。

 メニューフレームの「アドバンスド設定」 「DHCP 設定」 「固定 IP テーブル」をクリックします。

アドレス(D) 🙋 http://192.168.1.1	▼
PFUX型 ● http://19216811 Corega corega RMK ST-4F R.	ご 215% リンク ** アドバンスド設定 / DHCP設定 DHCP 「新力室」 DHCP間始アドレス 192.168.1.下 DHCP間対 アドレス 192.168.1.下 DHCP総プアドレス 192.168.1.下 DHCP総プアドレス 192.168.1.下 DHCP総プアドレス 192.168.1.下 DHCP電力 座る ①「固定 IP テーブル」をクリックする
 ■ 国家県テーブル ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	

2「追加」をクリックします。



図 5.8-5

図 5.8-4

3 設定内容を入力し「設定」をクリックします。



4 「固定 IP テーブル」の設定が追加されます。

© 1 192	アドレス 2.168.1.11	MAC 7 F 00-80-C8	 7. F7-04-6:	備考 3	●	る
	追加	修正	削除	戻る		

図 5.8-7

- 5 さらに設定を追加する場合は「追加」、設定を修正する場合は「修正」、設 定を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 6 本製品をリプートします。リプートについては、P.34の「設定方法(工 場出荷時の状態へ戻す、システムリプートをするには)」を参照してください。
- 7 これで、固定 IP テーブルの設定は終了です。

設定方法(除外IP テーブル) ここでは、以下のように設定するものと仮定して説明します。 ・「192.168.1.32」を DHCP アドレスプールから除外する ・アドレスプールは「192.168.1.11」~「192.168.1.254」

ここで説明する手順は、一例です。実際には環境に合わせた手順を実行してください。 注意

 メニューフレームの「アドバンスド設定」 「DHCP 設定」 「除外 IP テーブル」をクリックします。



図 5.8-8

2 「追加」をクリックします。



図 5.8-9

3 設定内容を入力し「設定」をクリックします。



図 5.8-10

4 「除外 IP テーブル」の設定が追加されます。



図 5.8-11

5 P.50の「設定方法(固定 IP テーブル)」の5~6の手順を実行してください。これで除外 IP テーブル設定は終了です。

設定方法 (BOOTP IP テーブル)

BOOTP IP テーブル設定の手順は、固定 IP テーブル設定の手順と同じで す。P.49 の「設定方法(固定 IP テーブル)」を参照し、「固定 IP テーブル」 を「BOOTP IP テーブル」に読み替えて作業してください。

5.9 スタティック・ルーティング・テーブル

機能

・本製品のスタティックルートを設定する

設定方法

- ここでは、以下の条件で設定するものと仮定して説明します。
- ・ネットワークアドレス(相手先のネットワークアドレス):192.168.3.0
- ・サブネットマスク (相手先のサブネットマスク):255.255.255.0

・ゲートウェイ (本製品から宛先までの経路になるルータ):192.168.2.1 ・インターフェース :WAN 側に接続

ここで説明する値は一例です。実際には環境に合わせた値を設定してください。

1 「アドバンスド設定」メニューで「DHCP 設定」をクリックします。



図 5.9-1

2 「追加」をクリックします。

注意



図 5.9-2

3 設定内容を入力し「設定」をクリックします。



図 5.9-3

4「スタティックルーティングテーブル」の設定が追加されます。



図 5.9-4

- 5 さらに設定を追加する場合は「追加」、設定を修正する場合は「修正」、設 定を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 6 本製品をリブートします。リブートについては、P.34の「設定方法(工 場出荷時の状態へ戻す、システムリブートをするには)」を参照してくだ さい。
- 7 これで、スタティックルーティングテーブルの設定は終了です。

6 無線アクセスポイント機能の設定をする

本製品の無線アクセスポイント機能の設定方法を説明します。

6.1 アクセスポイント機能の設定項目

1 本製品にログインし、メニューフレームの「無線アクセスポイント設定」 をクリックします。



2 以下の画面が表示されます。

	無線フ	アクセスポイント	·設定 [1995]		
ESSID:		corega			(
チャンネル		6			(
RTSしきい値:	<u> </u>	2432 (常力共用)信	2432, 0~2432)		(
パケット分割の	しきい値と	2432 (特力期)信	2402, 256~2432)		(
=-文字列:		***		コード生成	
WEP+-:					
		ASCII	HEX		
	十一1:(•			
	丰一2: (0			
	丰一3: (0			
	+				

図 6.1-2

(1)ESSID

デフォルトは「corega」になっています。セキュリティ上、環境に合わせた任意の値に変更して運用することをお勧めします。半角英数字(大文字小文字を識別する)で最大 32 文字まで設定可能です(無線ネットワークアダプターにも同じ SSID を設定する必要があります)。

(2) チャンネル

デフォルトは「6」になっています。「1」~「14」まで選択できます。 (3)RTS しきい値

デフォルトは「2432」です。データパケットの送信前に RTS パケットが 送信されるしきい値を設定します。特に必要ない限り変更しないでください。

(4) パケット分割のしきい値

デフォルトは「2432」です。長いパケットを分割するときのしきい値を設 定します。特に必要ない限り変更しないでください。

(5) 暗号化

デフォルトは「無効」です。「64bit」「128bit」が選択できます。

(6) キー文字列

HEX の WEP キーを生成するための文字列です。任意文字列を入力します。 (7)WEP キー

デフォルトは「設定なし」です。手入力の場合、ASCIIまたは HEX のいず れかによってキーを設定することができます。HEX の場合「64bit」で 10 桁、「128bit」で 26 桁の値を設定してください(設定した場合、無線ネッ トワークアダプターにも同じ WEP キーを設定する必要があります)。



WEP を設定した場合は、本製品とクライアントコンピューターに同じ WEP キーを設定しないと、本 製品との通信ができません。



暗号化の強度をあげると、メモリの消費量が増加するため、無線ネットワークのパフォーマンスに多少 影響があります。

3 P.55 の「6.2 設定を変更する」にお進みください。

6.2 設定を変更する

ここでは、変更内容を以下のように仮定して説明します。

- ESSID:corega
- ・チャンネル:7

ここで説明する値は一例です。実際には環境に合わせた値を設定してください 注意

1 設定内容を入力し「設定」をクリックします。

ESSID: Correct の「correga」を入力する	3
チャンネル: 2 7 2 を選択する	
RTSしきい値: 2432 (初期値2432,0~2432)	
バケット分割のしきい値: 2432 (初期値2432,256~2432)	
暗号化: 無効 👤	
キー文字列: コード生成	
WEP=+:	
ASCII HEX	
≠−1: 0	
≠-2: C	
≠−3: ○	
≠ −4: 0	
()^^	5

図 6.2-1

- 2 「設定は、正常に処理されました」の画面が表示され、1の手順の画面に 戻ります。本製品をリブートしてください。リブートについては、P.34 の「設定方法(工場出荷時の状態へ戻す、システムリブートをするには)」 を参照してください。
- 3 これでアクセスポイントの設定変更は終了です。

6.3 暗号化の設定

ここでは、変更内容を以下のように仮定して説明します。

・キー文字列「corega」によるコード生成で WEP キーを設定する

・64bit で暗号化する

暗号化をしなくてもご使用になれます。暗号化を設定しない場合には、クライアントコンピューターの 無線ネットワークアダブターの無線設定の暗号化も「無効」にしてください。

1 設定内容を入力し「コード生成」をクリックします。



2 WEP キーが4つ生成されます。

WEP+-:



設定 取消

図 6.3-2

3「設定」をクリックします。

ASCII	HEX
+—1:	95CB77F896
≠—2: C J¥B99¥FE¥D3	4 AB939 FED3
丰─3: C ¥18n¥AE¥15¥9A	186EAE159A
≠−4: C Q¥0A6¥DB¥DE	510 A36 DBDE

設た 取消

── ● 「設定」をクリックする

図 6.3-3

- 4 「設定は、正常に処理されました」の画面が表示され、3の手順の画面に 戻ります。
- 5 本製品と通信する無線ネットワークアダプターにも同じ文字列で WEP キーを生成してください。設定方法については、無線ネットワークアダ プターの取扱説明書を参照してください。
- 6 これで暗号化の設定は終了です。

7 こんなときには・・・

7.1 本製品の接続状態を見たい

メニューフレームの「システム情報」をクリックし、「システム情報」画面の 「更新」をクリックすると、現在の接続情報を見ることができます。

7.2 設定を強制的に消去したい

本製品背面のWAN 側のポートの右にある「RESET」スイッチを、5秒以上 押したままにして離してください。設定内容が工場出荷時の状態にリセット され、再起動が行われます。工場出荷時の設定については P.10 の「1.4 本製 品の工場出荷時設定」を参照してください。

7.3 PPPoE 接続を手動で切断 / 接続したい

メニューフレームの「クイック設定」をクリックし、「PPPoE」画面の「状態」をクリックすると「接続」「切断」「詳細情報」ボタンが表示されます。 これらのボタンにより、「接続」「切断」を手動で行うことができます。

7.4 本製品にアクセスできない

- (1) クライアントコンピューターのネットワークアダプターはきちんとイン ストールされていますか? ネットワークアダプターの取扱説明書を参照して、きちんとインストー ルされているか確認してください。
- (2) クライアントコンピューターの設定は正しいですか? P.11の「2 クライアントコンピューターを設定する」を参照して再度確認してください。
- (3) クライアントコンピューターと本製品の接続方法は正しいですか? P.17の「3本製品を取り付ける」を参照して再度確認してください。
- (4) 本製品のLAN 側のIP アドレスは正しいですか? 忘れてしまった場合は、本製品の設定を強制的に消去して工場出荷時の 状態に戻す方法があります。ただし、それまでの設定内容は全て消去し てしまいますのでご注意下さい。手順については、P.58の「7.2 設定を 強制的に消去したい」を参照してください。
- (5)本製品はきちんと動作していますか? まれに、本製品がフリーズしている場合があります。その場合は、電源 アダプターの抜き差しによる再起動を行ってください。

7.5 本製品にアクセスはできるがメニューがきちんと表示されない

- (1)ご使用のブラウザで JavaScript が無効になっていませんか? JavaScript を有効にしてください。有効に設定する方法については、ブ ラウザのヘルプ等を参照してください。
- 7.6 無線ネットワークアダプターで本製品と通信できない
- (1) 無線ネットワークアダプターの動作モードは「Infrastructure モード」に なっていますか? 無線ネットワークアダプターの動作モードを確認してください。確認方 法については、無線ネットワークアダプターの取扱説明書を参照してく ださい。
- (2) 本製品と無線ネットワークアダプターに同じ ESSID(SSID) を設定していますか?
 本製品と無線ネットワークアダプターの ESSID を確認してください。確認方法については、P.53の「6 無線アクセスポイント機能の設定をする」を参考にしてください。
- (3) WEP キーは正しいですか?
 WEP キーを設定している場合は、WEP キーが異なると通信できません。
 P.53 の「6 無線アクセスポイント機能の設定をする」を参照し、WEP キーを「無効」にして接続できることを確認してから再設定してください。
- 7.7 インターネットに接続できない
- (1) 本製品と ADSL/CATV モデムがきちんと接続されていますか?
 本製品前面の WAN/LAN の LED、モデムの LED の点灯が正常か確認してください。
- (2) クライアントコンピューターのネットワークアダプターは正しく動作していますか ネットワークアダプターの取扱説明書を参照してご確認下さい。
- (3)本製品に設定したプロバイダーからの接続情報は正しいですか? P.20の「4インターネットにつなぐ(クイック設定)」を参照して、入 カミスがないか再度ご確認下さい。接続情報が不明な場合はご契約のプ ロバイダーにお問い合わせ下さい。
- (4) クライアントコンピューターの設定は正しいですか? P.11の「2 クライアントコンピューターを設定する」を参照して再度、 ご確認下さい。

クライアントコンピューターが本製品よりIPアドレスが取得できている か確認してください。

WAN と接続している状態で、本製品が WAN 側より IP アドレスを取得 できているか確認してください。

本製品と接続しているモデム (ADSL/CATV モデムなど)の電源を入れ 直してください。なおお客様の接続状態によっては電源投入後、設定が 完了するまで 30 分前後かかることがあります。

(5) (PPPoE 接続の場合)

`PPPoE 接続の詳細情報を以下の手順で確認してください。

メニューフレームの「クイック設定」をクリックし、「PPPoE」画面の「状態」をクリックすると「接続」「切断」「詳細情報」ボタンが表示されます。 「詳細情報」をクリックすると接続に関する詳細情報が確認できます。

正常に接続できていると以下のように表示されます。

PPPoE 詳細情報	
接続時間	0:00:39
サーバへの接続	ок
PPP LCP ネゴシエーション	ок
接続認証	ок
取得IP アドレス	ок

図 7.7-1

接続に失敗すると以下のようになります。このような場合は、ユーザーID、 パスワードなどを再確認してください。それでも接続できないときはしば らく時間をおいてから接続してみてください。

PPPoE 詳細情報	
接続時間	0
サーバへの接続	失敗
PPP LCP ネゴシエーション	
接続認証	
取得IP アドレス	

図 7.7-2

無線部		
規格	IEEE802.1	1, IEEE802.11b
適用規格	EMI規格 V	/CCI Class B
周波数帯域	2.4GHz ~	2.497GHz
変復調方式	直線拡散型	』スペクトラム拡散方式(DS-SS方式)
データ転送速度	11Mbps/5	5.5Mbps/2Mbps/1Mbps 自動切替
サービスエリア	屋内50m/J	室外150m
/伝送距離		
セキュリティー	64/128bi	t WEP方式,ESSID
チャンネル数	14ch	
対応モード	アクセスオ	ポイントモード
ルータ部		
サポート規格	WAN 側	IEEE802.3 10BASE-T
		RFC 791(IP),RFC 793(TCP),RFC 768(UDP)
		RFC 792(ICMP),RFC 783(TFTP),RFC 1945(HTTP)
		RFC 1541(DHCP),RFC 1661(PPP),RFC 2516(PPPoE)
	LAN 1則	IEEE 802.3X 100BASE-1X
スイッチンク方式	ストア&ノ	オリート万式
電源部		
定格入力電圧	AC100V	
入力電圧範囲	AC90-132	2V
定格周波数	50/60Hz	
最大入力電流	1.2A	
平均消費電力	8.0W(最大	大8.7W)
平均発熱量	6.88kcal/l	h(最大7.482kcal/h)
環境条件		
保管時温度	-20~60	
保管時湿度	95%以下([ただし、結露なきこと)
動作時温度	0~40	
動作時湿度	80%以下(ただし、結露なきこと)
外形寸法	225(W) x	138(D)x31mm(H) (突起物含まず)
重量	482 g (AC	Cアダプタ含まず)
アドレスエントリー数	1000個	
アドレス保持時間	300秒	
パケットメモリ容量	128kbyte	

適用規格について (EMI 規格: VCCI クラス B)

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基 づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを 目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して 使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

保証と修理について

保証について

本書に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正し くご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。 正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的 な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承く ださい。本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間を ご覧ください。

修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接 続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、 巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添 付し、弊社サポートセンター宛てに製品(付属品一式を含む)を送付くださ い。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

保証書に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる 場合があります。

弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊 社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。

宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。

修理期間は、製品到着後、約 10 日程度(弊社営業日数)を予定しております。 製品送付先

〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20

(株) コレガ corega サポートセンター宛

ユーザーサポートについて

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」(P.65)をコピー したものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。で きるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細 な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く 問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書の記入につ いて」をご覧ください。

Tel:045-476-6268 10:00-12:00、13:00-17:00

月~金(祝・祭日を除く)

Fax:045-476-6294

番号はお間違いのないよう、よくお確かめの上ダイヤルしてください。

調査依頼書の記入について

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止め るためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそっ て、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別 途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウエアとソフトウエア

本製品上に貼られたラベルに記入されているシリアル番号 (S/N)、製品リビ ジョンコード (Rev) を調査依頼書に記入してください。

S/N 0047744990805087 Rev A1

ご使用になっているソフトウエアの種類 / バージョン(Ver.)を記入してく ださい。これらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。 他社のインターフェースボードやユーティリティーをご使用の場合は全てご 記入ください。接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入 ください。

お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出 来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。 エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッ セージの内容をプリントアウトしたものなどを添付してください。 障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティーや、 アプリケーションの処理内容もご記入ください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡 単な図を添付してください。他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機 種名、バージョンなどをご記入ください。

最新ファームウェアの入手方法

弊社は、改良のために予告なく、本製品のファームウェアのバージョンアッ プやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、 弊社のホームページから入手することができます。

Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator などの Web ブラウザー を使用して、次のアドレスにアクセスしてください。

http://www.corega.co.jp/

「サポート情報」「ダウンロード」からアクセスしてください。

corega Net-News のご案内

「corega Net-News」は、株式会社コレガがお届けするメール配信サービス です。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など耳よりな情報をお届 けいたします。メール配信サービスをご希望のお客様は、corega ホームペジ でご登録ください。なお、メール配信サービスはどなたでもご登録いただけ ます。

おことわり

- ・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承 ください。
- ・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- ・本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2002 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windows、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその 他の国における登録商標または商標です。

フレッツは、東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社の登録 商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各 メーカーの商標または登録商標です。

2002年04月 Rev.A 初版

調查依頼書(corega BAR SW-4P WL)

年 月 日

一般事項

会社名(個人名):
 部署名:
 ご連絡先住所:〒

TEL:(2. 購入先: 購入先担当者: ご担当者:

フリガナ:

FAX:() 購入年月日: 購入先 TEL:()

ハードウエアとソフトウエア

)

1. ご使用のハードウエア機種(製品名)、シリアル番号、リビジョン

製品名: corega BAR SW-4P WL



ファームウェアバージョン Ver.___

 2. 接続形態とご契約のインターネットサービスプロバイダー(ISP)名 またはケーブルテレビ(CATV)名

CATV	社内LAN		
フレッツADSL	その他()	
ADSL事業社	ご契約のISP/CATV名()

お問い合わせ内容

 別紙あり
 別紙なし

 設置中に起こっている障害
 設置後、運用中に起こっている障害

ネットワーク構成図

別紙あり 別紙なし 簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

メモ

この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い 説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が 発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

・ハードウェア本体:製品保証書に記載の"保証期間"で無償保証とします。

(ただし、本規定の他の条項に準じます。)

・電源アダプター / 電源ケーブル:1 年保証

・本体付属品(ユーティリティー CD、UTP ケーブルなど):3ヶ月保証 保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完 了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書 に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付 してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外と させていただきます(ただし、無償修理の適用外であっても有料での修 理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます)。

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および 損傷

- 2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損 傷
- 3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電 圧などの外部要因によって生じた故障および損傷

4. 接続された他の装置が原因で生じた故障および損傷

5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷

- 6. 消耗品の交換(バックアップ電池など)
- 7. 製品保証書の提示がない場合

8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き 換えられた場合

修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本 製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を 一切負わないものとします。

製品保証書は、日本国内のみで有効です。

製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管し てください。

iphy yiphy yiph

この製品((裏面)	保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定 に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。
製品名	corega BAR SW-4P WL
シリアル番号 (S / N)	3
ご購入日	3
製品保調	証に関するお問い合わせ先
C ∓	oregaサポートセンター ⁻ 222-0033 袖奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20
T	EL:045-476-6268 受け付け時間:10:00 ~12:00/13:00 ~17:00 月~金(祝・祭日を除く)
F	AX:045-476-6294
販売店	漾印
本保証書は	ー こお買い上げ販売店の記名及び押印が無い場合は、有償扱いとなり 予めご了承ください。